


令和4年度 訪問看護出向事業 報告会

訪問看護ステーションの立場から

 安芸地区医師会訪問看護ステーション
所長 金行由美

安芸地区医師会訪問看護ステーションの概要



安芸地区医師会総合介護センター理念

住み慣れた地域・我が家で
『人間らしく、その人らしく生きていくこと』を支援し、
専門性の高いサービス（ケア）を実践します。

所在地：安芸郡海田町栄町5-13
 主 体：一般社団法人 安芸地区医師会
 開 設：平成5年4月1日

府中町訪問看護ステーションH10年4月開設
 ホームヘルプステーションH11年4月開設
 居宅介護支援事業所（海田・府中）H11年11月開設
 熊野町訪問看護ステーション・居宅H11年10月開設

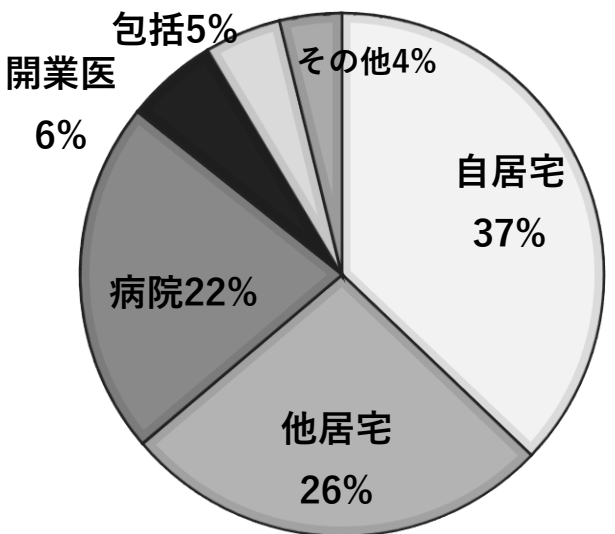
高齢化率

	総人口	高齢化率	
安芸区	77,591	27.20%	R4.3.31現在
海田町	30,408	23.90%	
坂町	12,943	29.60%	R4.1.1現在
県全体	2,788,687	29.60%	

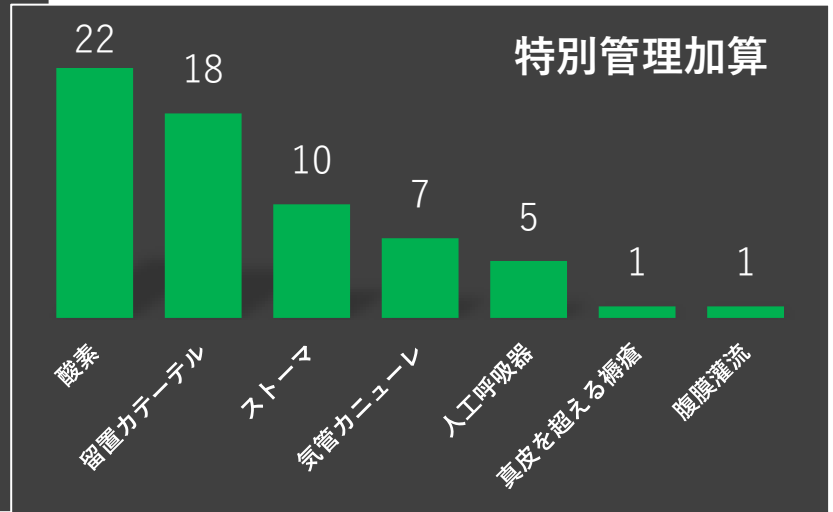
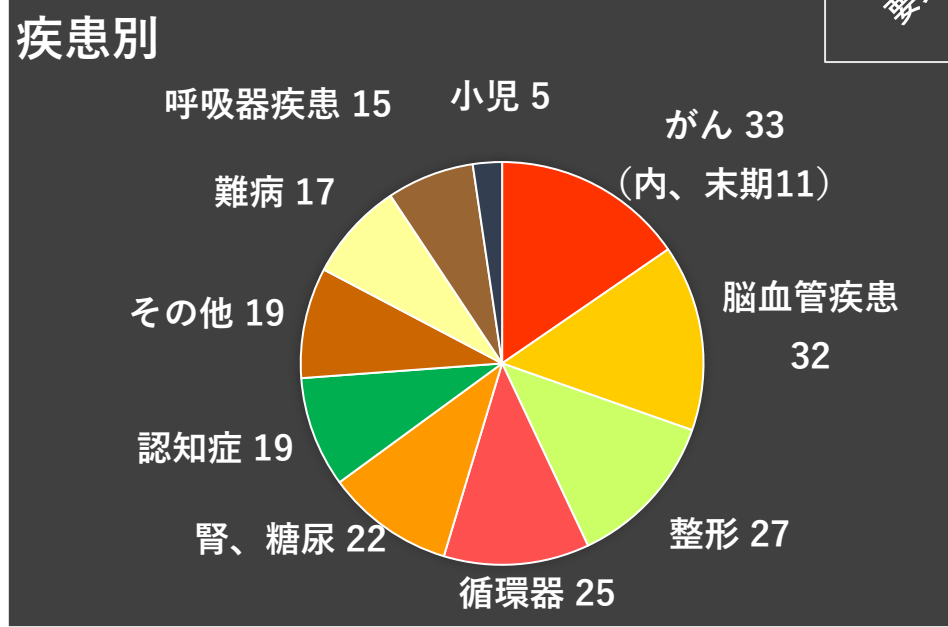
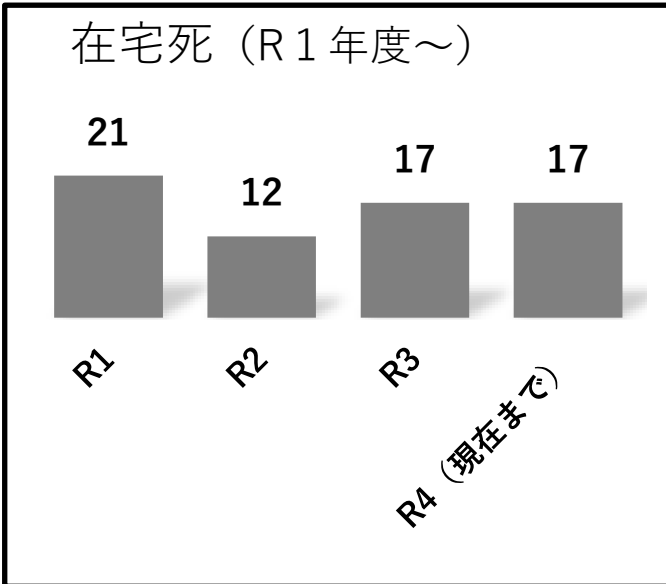
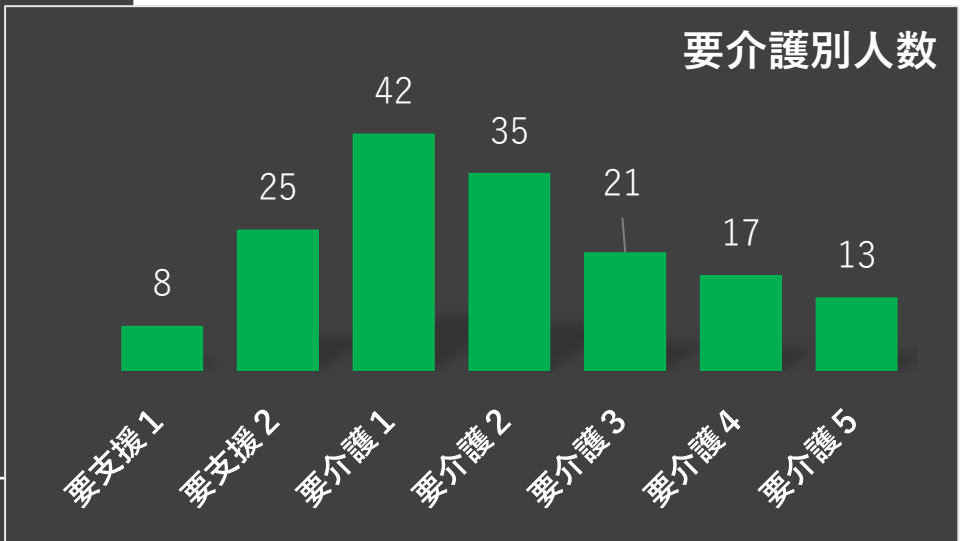
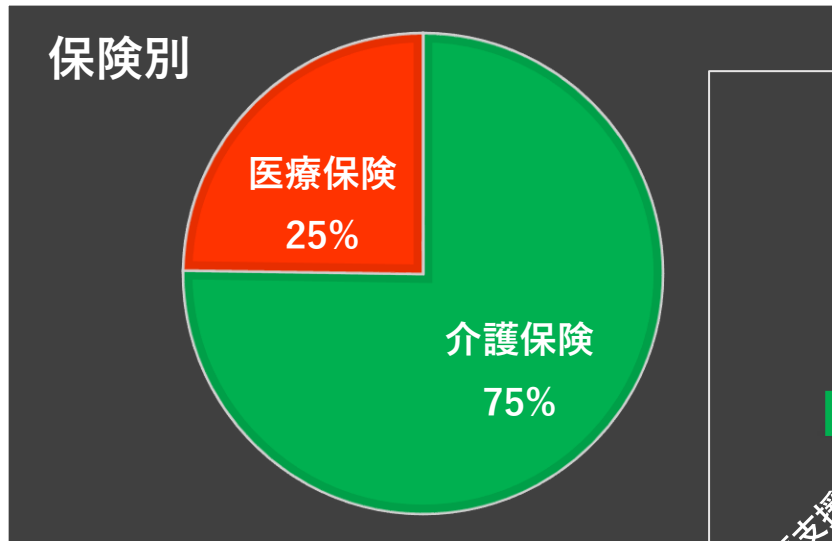
利用者数：214名（令和4年12月実績）
 訪問回数：1297件（令和4年12月実績）
 職員数：29名（Ns18名・PT7名・OT2名・ST1名・事務1名）
 その他：機能強化型訪問看護ステーションⅡ算定
 看護体制強化加算Ⅰ算定
 訪問エリア：安芸区、海田町、坂町、南区の一部（1市2町の行政区）

訪問看護の導入経路

(R3年度 N=105)



令和4年12月訪問実績 (N=214)



出向の受け入れまで

不安はなかった

- 日頃から連携している医療機関であり、関わることの多いNsであったこと
(事業所内は歓迎ムード)
- 在籍型出向であったこと
- 看護協会からいただいた前年度の「訪問看護出向事業受入れ計画」が参考になったこと

唯一の心配

- 利用者が受け入れてくれるか？

短期間での担当交代が前提にあり

受け入れの準備

安芸地区医師会訪問看護ステーションからのお知らせ 令和4年10月

「訪問看護出向事業」受け入れのお知らせ



この度、安芸地区医師会訪問看護ステーションでは、広島県看護協会の「訪問看護出向事業」を受け入れることになりました。

「訪問看護出向事業」とは、病院の看護師が一定期間、病院に在籍したまま訪問看護ステーションに出向し、訪問看護の職員として業務を実践する事業です。

病院と訪問看護ステーションがお互いを理解し連携協力することで、地域の方々の住み慣れた場所で暮らすことができる仕組みづくりとなるよう、一同取り組んでいきたいと思っています。

皆さま方には、ご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

出向受け入れ期間

令和4年10月1日～12月31日（3か月間）

出向者

マツダ株式会社マツダ病院 看護師1名
看護師経験25年：病棟（循環器・呼吸器・消化器科）、退院支援など経験豊富



具体的な内容

10月：訪問看護の概要や制度を理解してもらい、同行訪問を中心にいきます。

11月：同行訪問に加えて、単独での訪問も行います。

12月：単独での訪問を中心にいきます。

※ 単独の訪問においては、安芸地区医師会訪問看護ステーションが他の職員と同様にバックアップします。

※ サービス担当者会議や退院前カンファレンス、地域の多職種の方々との連携を実践します。



安芸地区医師会訪問看護ステーション
〒736-0043 広島県安芸郡海田町栄町5-13
所長 金行由美
電話 082-824-1340

体制

- ・ 主担当者：主任
- ・ 副担当者：常勤看護師

方針

- ・ 前年度出向計画に沿って、出向者の意向を取り入れる
- ・ 1か月目：同行訪問
- ・ 2か月目：同行訪問＋単独訪問
- ・ 3か月目：単独訪問

準備

- ・ 利用者、関係機関への周知のため、お知らせ文作成
- ・ 変更届提出（雇用証明書要で追加提出）

利用者の選定等で留意したこと

◆同行訪問について

- マツダ病院に関わりのある方は全例。
- 新型コロナの流行時期であり、人の出入りに過敏な利用者は避けた。
- お知らせ文を配布したことで受け入れは良好、断られることはなかった。
中には、「うちにはいつ来てくれる？」と待っている利用者も居た。

◆担当する利用者について

- 週1回一人担当の利用者以外から選定
- 新規利用者（導入からの介入）

特に印象に残っていること

◆能力が高い

- 患者支援センター勤務で、地域資源の知識が豊富であり、日頃から外部サービスとの連携をされていること。
- 訪問看護師養成講座・eラーニングを受講済みであり、訪問看護の仕組みや制度理解がスムーズだった。
- タブレットの扱いに戸惑いなし

◆スタッフとのかかわり方

- 自然に溶け込んで、情報交換の輪に加わっている。
(聴いている、視線の向けている、関心を示している)

出向者の不安

◆決められた時間内にできるだろうか

状況を把握し、必要なケアを提供する＝訪問の組み立て

◆いつもと違うことが起こったら…

引き継いだケア内容を「同じように」に対して不安はないが、

- ・何かあったら…が頭をよぎる。
- ・通常は仕事などのために不在の介護者が居たら…いろいろ質問が有ったら対応できるだろうか…

◆運転

実績

- 担当者会議参加
- 居宅介護支援業務の説明（併設事業所所長）
- 訪問入浴見学
- 主治医等、関係機関との連携
- 勉強会参加（講師も、地域連携センター業務）等

主訪問 29件
緊急訪問 1件

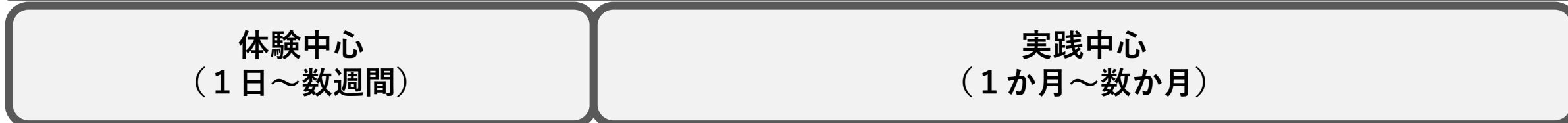
- Ns同行訪問 92件（51人）
- リハ職同行訪問 7件
- 単独訪問 19件（8人）
- 退院前カンファレンス 3件
- その他

ALS（気切・人工呼吸器） 1名
がん末期 1名
新規導入 1名

カバー訪問 2件

ZOOM 1件

研修との違い (訪問看護出向事業の手引きより)



	見学・同行訪問	同行訪問 (業務補助)	単独訪問	
目標	訪問看護の業務内容や対象者の状態増を理解する	訪問看護業務の一連の流れと手順を理解する	一人で訪問し自身のアセスメント・判断に基づき看護を実施	訪問看護計画の立案、必要に応じて他職種との連携調整を行う
成果	訪問看護の認知視点の変化 (在宅療養可能な患者像)	訪問看護の役割理解 訪問看護の基本的スキルの習得	利用者の個別性に対するケアの提供 自律的な判断力	状況に応じた対応力 相手に応じた連携調整力・マネジメント

出向者はすべて達成

成果

訪問看護の理解の促進、魅力の発信

- ・ 利用者の数だけ療養環境と日常があり、同行訪問で数多く実際の生活の場に入れたことによって退院支援等の連携に活かされ、訪問看護に必要な情報提供、実践に即した調整力を発揮されている。

病院と訪問看護ステーションの連携強化

- ・ 出向事業後、より一層連携がスムーズになった。
- ・ 看護管理者同士の意見交換・情報共有の場となった。

訪問看護を実践できる看護人材の育成・活用

- ・ 3か月という期間内で、2か月目に単独は訪問可能、またカバー訪問や複数名訪問の担い手となる。

その他

- ・ 通常一人で訪問するスタッフにとって、一緒に訪問し、違う視点が入ることで自分自身のケアを見直すことができる。（程よい緊張感も）
- ・ 同行訪問が減った常勤看護師がリハビリ職訪問の同行が計画通りできた。
- ・ 『出向』というシステムを法人内に取り入れる予定。
- ・ 『訪問手順書』を誰が見てもわかる様に見直す機会となった。

感想

- 出向は『収益につながる単独訪問』を目的とすることで、研修とは異なり、職員の育成視点で双方が取り組める。出向者の経験や能力で単独訪問の時期や件数は異なるが、おおむね2か月目には可能。
- 事業参加～終了まで（協定・1か月目振り返り・3か月目振り返り）と適切な時期に看護協会・出向元・当事業所3者が顔を合わせて話し合いが行われ、「不安」「困る」は感じなかった。
- 在籍型出向であり、出向者のペースに合わせて、経営面に関して負担なく対応できた。
- ターミナルケアに関わっていただけだったが、在宅看取りとのタイミングが合わなかった。
- コロナ禍でスタッフの休みが多い時期、スタッフが有給休暇を取得するには至らなかった。
成果を数値化が難しい
- 写真をとっていなかった（大きな反省点です）

感想

受け持った利用者より

緊急入院になり不安な時に、病室に来てくれてうれしかった

スタッフより

また来てほしい、
出向事業受け入れ
ウエルカム

担当職員より

訪問看護の契約書を見ていただき、どんな契約をして、料金がどの程度かかるか理解していただけた。特に医療保険がわかりにくく訪問看護を勧めるにあたり参考になると言われた。

新規から担当、一連の記録を作成し、「病院に届いている報告書がどのように作成されているのか分かった」と言われ、書類の流れを理解していただけた。

「訪問看護は何をしてくれるの？」に対して具体的に説明できる。

「在宅は無理！」が「できるかも」になる。

訪問看護の魅力を伝えていきたい。